

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

京田辺校地に吹く

新しい風

〈新学部の現在・未来〉

●同志社人訪問

京都府警察本部ハイテク犯罪対策室室長

小山雅子さんに聞く



CONTENTS 2008 DECEMBER No.157

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動



特集

京田辺校地に吹く新しい風 ---- 2 ～新学部の現在・未来～

来年度就職を目指す皆さんへ ----- 9

同志社の研究は今 ----- 11

知的オフィス環境を実現する基盤技術の研究開発拠点

・知的照明システム研究センター 三木 光範 理工学部インテリジェント情報工学科教授

スポーツ講演会メダリスト対談 ----- 13

～北京オリンピックを振り返って～

明治維新を邁進した新島襄を知る2冊刊行! ----- 15

CAMPUS NEWS ----- 16

全日本学生フォーミュラ大会に出場／同志社京田辺祭2008(愛称:ADAM祭)開催!／名古屋で関西4大学学長フォーラム開催／文部科学省の「産学官連携戦略展開事業」に採択／文部科学省「国公立大学を通じた高等教育改革の支援」／第4回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践実例コンテスト2008」でPEPNet-Japan賞を受賞／新任・退職教員／司法試験結果／本学教職員の執筆図書を紹介／卒業生の新刊図書／他

在学生・教員の活動

OP COMMENTARY ----- 19

チャンスを活かせ 大久保 雅史 理工学部情報システムデザイン学科教授

MY PURPOSE ----- 27

大分国体ボクシング成年男子ミドル級優勝 ～諦めない強い思いが、創部以来初の全国タイトルに結実した～
朴 忠南さん(商学部4年次生)

卒業生の活動



INTERVIEW ～同志社人訪問～ ----- 20

京都府警察本部ハイテク犯罪対策室室長(京都府警初の女性警視)
小山 雅子さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ ----- 23

・横谷 賢一郎さん(1993年文学部文化学科美学及芸術学専攻卒業)

・松中 歩さん(2005年神学部卒業)

ANNOUNCEMENT ----- 25



表紙の情景 [新島記念講堂]

新島記念講堂は、1988年に同志社創立111周年を記念して建設された。パイプオルガンやステンドグラスを擁する大ホールは900名を収容でき、クラシックのコンサートから礼拝まで、多岐に渡って利用されている。

重厚な外観と美しい尖塔が非常に印象的。行き交う人びとを見下ろす堂々とした姿は、女子大学、国際中学・高校を含めた京田辺校地のシンボルといえる。

京田辺校地に吹く 新しい風

～新学部の現在・未来～

2009年4月、京田辺キャンパスにまた1つ、新しい学部が誕生する。

文学部心理学科を改組し、学部として独立した心理学部。

80年の伝統に裏打ちされた基礎研究力(Research)をベースに、

実社会のあらゆる心の問題に対応する実践力(Action)を養う。

他学部や研究センターなど学内の機関はもとより、

産業界や教育・医療機関など学外機関とのより密接な連携を進める

心理学部を目指す、新たなステージの教育・研究とは――。

そして、京田辺キャンパスではひと足先に2つの新学部、

生命医科学部とスポーツ健康科学部がスタートしている。

同志社大学の教育と研究に新風を吹き込む両学部の現在と

見えてきた未来とは――。

心理学部

Faculty of Psychology

生命医科学部

Faculty of Life and Medical Sciences

スポーツ健康科学部

Faculty of Health and Sports Science



心理学部

基礎心理学を土台に臨床・応用領域を一層強化し、社会のあらゆるフィールドで活躍できる人材を育成する。

今社会の中で心理学が関係する、あるいは心理学が対応していかなければならない心の問題が増えてきています。その意味では、心理学の重要性がより高まっていると言えます。実際、他大学でも心理学の教育を拡充し、社会に人材を送り出そうという動きが活発化しています。

心理学科は、80年の歴史の中で、大学の中心

と、現在の文学部心理学科から新たに心理学部として独立することになったのです。

学部への昇格に伴い、教員を倍増し、新たに「神経行動心理学」「臨床社会心理学」「発達教育心理学」の3つのコースを設置することになり、より細やかな授業ができるようになります。「神経行動心理学コース」は、最新の脳科学や行動科学を学び、基礎的な研究を行います。

同志社大学の心理学部で学んだこと、 それ自体を社会での力にしたい。

の基礎心理学と実際の臨床現場を結ぶ研究・教育を進めてきました。かつては病院が心理学の現場だったのですが、今は範囲が大きく広がり、学校や会社などにも心の問題は及んでいます。保健機関、産業界、地域社会に人材を送る、逆にそういう所でどのように心理学が使われているかをフィールドバックする。そして社会との結びつきをより深めつつ、現在の社会でどのようなことが求められているかを教えていこう、求められる人材を育てていこう

す。病院でのカウンセリングや精神療法などを学ぶのが「臨床社会心理学コース」。社会心理学というのは、実社会や産業界の現場で人間がどのように振る舞うかということを研究するものです。「発達教育心理学コース」では、生まれてから高齢者になるまで、学校現場での教育を含め、人を育て成長させるために心理学がいかに応用されていくかを学びます。また、今回の学部昇格に当たり、新しい試みとしてプロジェクト型演習を導入しました。従

来から大学院で行っているプロジェクト型教育が文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択されており、そのノウハウを学部の教育に生かしていくものです。学外の一般企業や公共の研究機関、あるいは医療福祉施設などへ出かけ、実際の現場で実践型の研修を行います。また、ヒューマンサイエンスという観点から、人間に関する領域のあらゆる学部と協力していきたいと考えています。生命医科学部やスポーツ健康科学部、あるいは文化情報学部などとも連携し、より広く深い教育や研究ができることを期待しています。

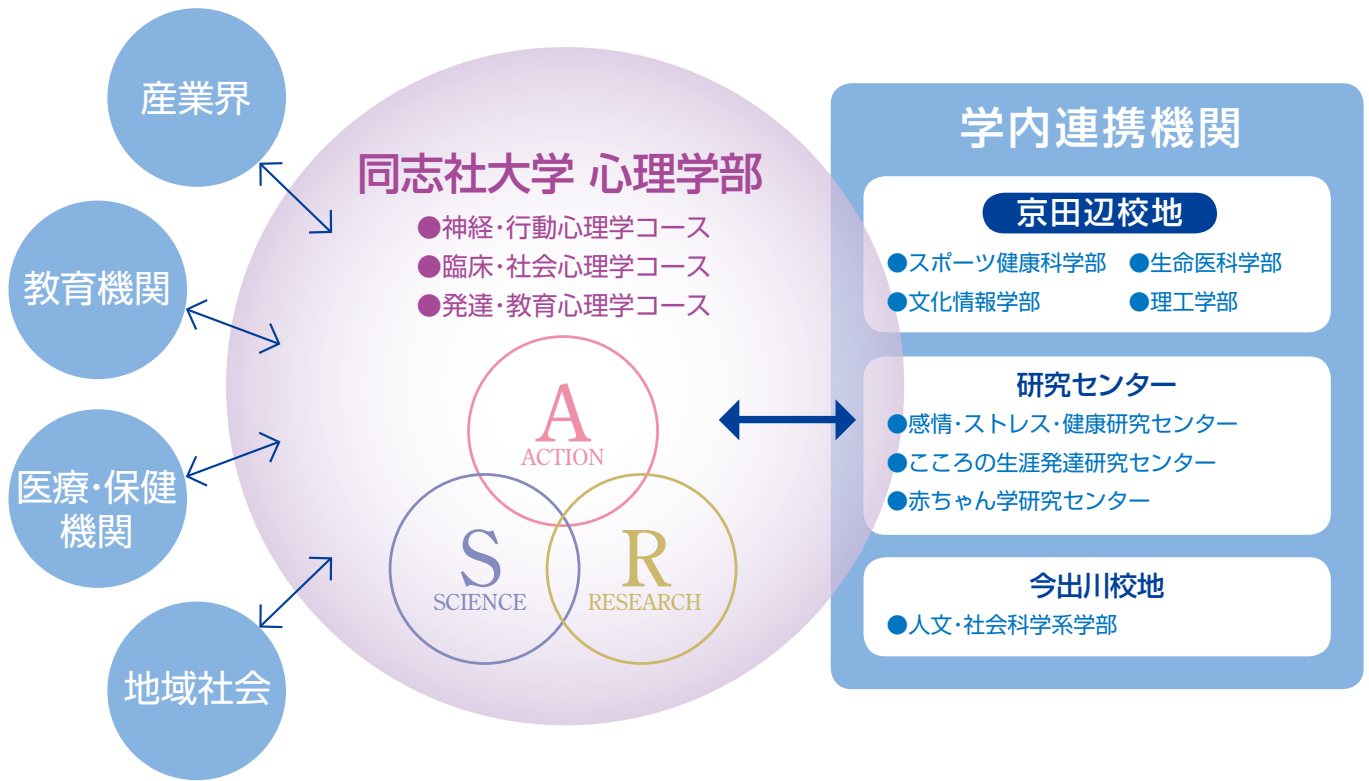
卒業後の進路は、「神経行動心理学コース」の場合であれば、人間の生体に関わる領域に進む人が出てくるでしょう。「臨床社会心理学コース」では人間の心の問題に深く関わるので、医療関係だけでなく、消費者行動を考えるマーケティング部門や、人材の適正配置を考える人事部門などでも活躍が期待されます。「発達教育心理学コース」は、子どもや高齢者に関係する現場を中心に、さまざまな分野が考えられます。臨床分野など大学院修了で得られる心理士資格については、来年度に入学してくる学生が博士課程(前期)に進む2013年度には整備する予定です。そして何よりも、同志社大学で学んだこと、それが自分が資格以上の評価を得られるように努力していかなければなりません。

これまで物質的な豊かさを求める時代でしたが、今は人間を豊かにしなければいけない時代になってきています。医学でも再生医学があるように、人間が充実して快適に生きる、その中心にある心の部分を扱っていく、心理学は大きな役割を担っています。現在、社会で起きている予想のつかない問題は、心の関係するものが多い。環境問題にしても根底には環境と人間との関わり方があり、最終的には人間の心という部分に帰着します。社会で実践する心理学部として、これから社会に対応していくと考えると、多角的に対応していきたいと考えています。



内山 伊知郎 教授
(学部長予定者)

■心理学部と学外・学内連携イメージ図



■3つの履修コース

神経・行動心理学コース

近年めざましい発展をみせている最新の脳科学や行動科学を学びます。複雑な心理や行動を、基礎からじっくり考える能力を養えます。

卒業研究のテーマ(例)

- 空間認知における脳のはたらき
- ポリグラフ検査における情報既知性についての検討
- 活動性拒食症のラットにおける食事の予期の効果

臨床・社会心理学コース

社会の要請に応じて、臨床・社会という応用分野の教育をより一層強化します。こころの健康や社会的な行動の仕組みを科学的・実証的に学びます。

卒業研究のテーマ(例)

- ストレス条件下における身体反応と感情
- うつ症状の臨床行動分析
- 消費者認知における価格と品質保証の役割

発達・教育心理学コース

子どもから高齢者まで健やかに成長するために、心理学がいかに応用されていくかを学ぶコースです。社会のあらゆる分野で今後ますます必要性が高まることが予想されます。

卒業研究のテーマ(例)

- 乳児の自由遊び場面における人見知り行動
- バイオカイトが小学生の理科興味に及ぼす影響
- 児童・生徒における異年齢交流の教育的効果

Check Points

1 充実したカリキュラム

80年の伝統ある実験心理学に基づいた、少人数教育を一段と強化します。初年次からの「実験演習」「実習」科目に加え、新たに「プロジェクト演習」を導入し、より実践的な教育を実現。また、30以上の多様な選択科目を揃え、その多くを他学部生の履修可とすることで、幅広い興味にも対応します。

2 大学院「心理学研究科」スタート

学部開設に合わせ、文学研究科心理学専攻から心理学研究科として独立します。研究者や専門家の養成のみに留まらず、学内外と連携を深め、研究環境をさらに充実させることで、優れた教育・研究成果を期待できます。

3 心理士資格について

指定大学院の修了者に受験資格が与えられる「臨床心理士」や、大学院修了を主な受験資格とする「臨床発達心理士」「学校心理士」などの大学院資格については、2009年度入学生が大学院に進む2013年度までに、すべて整備される予定です。また、学部資格には「認定心理士」「健康心理士」もあり、現在も取得できます。
(心理士資格に関しては、現在国家資格はありませんが、できる場合はすぐに対応する予定です)

生命医科学部

工学研究の知識・実績と医学を融合、多角的に人の医療と社会に貢献できるプロフェッショナルを育成する。

生命医科学部誕生の背景には、同志社大学の創立者・新島襄の医学教育への強い思いがあります。これを具現化するために新島は、1887年に京都看病婦学校と同志社病院を創設しました。ところが、財政上の問題から20年後に廃止となり、それ以降新島の医学への志は歴史の中に埋もれてしまいました。近年、日本の社会は少子高齢化が進む一方で、さらに深刻な医師不足に直面して

ことが目的ではなく、工学系分野と連携しながら基礎医学の分野の人材を養成していきます。基礎医学は人間の体の構造と機能病気の原因とプロセス、さらにその診断・治療方法を研究することが重要ですが、生命医科学部として予防医学にも力を入れています。医師不足の現状の中、医学部で学んだ学生の多くが臨床医になっていくと、基礎医学の分野へ進む人材が少なくなってしまう。基

礎医学が低迷すれば、新しい医薬品や治療方法・診断方法の研究がおろそかになる危険性があります。重要な分野である基礎医学の発展を、生命医科学部の卒業生が担っていくことを期待しています。

カリキュラムでは、医学部で開設される科目が多く設置されています。加えて、物質機械としてプログラミングなどの工学系、情報系の勉強も取り入れ、人間の体に関わる分野を学んだ上で、工学的な知識・技術を修得

医学・工学の専門性を身につけ、基礎医学を担う。プロの研究者に。

います。同志社大学として今の社会と人のニーズに応えるために何が必要で、何ができるのかを考えたときに、生命医科学部は立ち上がったのです。

同志社大学にはすでに医療への応用を念頭に優れた工学技術の開発、研究に取り組んでいる教員がいました。そこに生物・医学系の教員が新たに加わり、医学と工学を融合した教育研究を進めていくとしています。

医学部ではないので、臨床の医師を育て

ます。とりわけ生命医科学部が他の学部、学科と異なる点は、学生が自ら考えるきっかけになる概論科目を、「医工学科」「医情報学科」「医生命システム学科」の3学科をまたいで取り入れている点です。中でも特徴的なのが「生命医科学概論」と「医工・医情報概論」です。3学科合計約250人の学生が、各学科の半分ずつを合わせた120人程のクラス2つに分かれ、春学期と秋学期にそれぞれが2つの概論を交互に学びます。最初から3学科合同の形で勉強し、さまざまな教員の授業を経験するようにしています。初めて聞く話には、学生はみんな驚きをもって熱心に耳を傾けています。現実に行われている研究や医療の話聞くことができるというこ

とで、高校時代の授業とはまったく違う新鮮さや刺激があるようです。また医生命システム学科が提供している「臨床医学概論」は他学科の学生も受けることができ、臨床の現場を医学部と同様に体験できます。

学生には大学院への進学をすすめています。医学・工学の専門性を身につけるとい意味では、大学院へ進んでからの方がさらに成長できます。少なくとも生命医科学研究科の博士課程前期へ進学し、その中からさらに後



野口 範子 教授

期課程へ進んでプロの研究者になる学生が、1人でも多く生まれることを願っています。

生命医科学部の学生に望むのは、現在の社会が抱えている問題について理解し、そこから自分が勉強していく中で何ができるのか、何をしなければいけないのかを考えてほしいということ。まず問題意識を持って自分で考える習慣をつけることはとても重要です。基礎的分野であれ専門的分野であれ自分で考える習慣を身につけてほしい。特に医生命システム学科の学生は、自分が基礎医学を担う人間なのだという自覚を持たなければいけません。基礎医学を学ぶということは、直接ではないにしても、臨床で救うよりずっと多くの人を救うということです。そういったことをきちんと自覚して、しっかり専門的な知識を身につけていってほしいと思います。



実験・実習と講義を並行して進め、実感して学ぶ。

坐骨神経標本を作成し、電極をつなぎ、神経を伝わる電気信号を計測する。または圧力センサーで筋肉の収縮する力を測る。

医心館109N教室、医生命システム学科共同実験室で行われている「医生命基礎実験」。白衣を着た学生が8つの実験テーブルに分かれ、パソコンのディスプレイに映し出されたデータを熱心に覗き込んでいる。

医生命基礎実験の中の生理学実習である。生理学とは人が機能するための「理」を学ぶものである。どのような仕組みで神経が発火し、次いで筋肉が収縮するのか、実際に標本を用いて測定する。それらの生理現象をもとに生理学の基本を理解することが、実験の目的だ。医生命基礎実験では今後、解剖学実習をはじめ、分子生物学的、生化学的な実習も行い、多角的に生命の理を見ていく。

「生命医科学部では1年次からこうした実験や実習を積極的に取り入れています。実感することと学ぶことを並行していくのがベストです。講義だけでは何のためか学んでいるのかよくわからない場合がありますが、実習を通



して知識を実質に繋げてもらいたい。一方、実習の中でこの現象について説明しなさいと提示しても、それを説明するだけの知識



をまだ学生は持っていないかも知れない。知らないからこそ、調べる学ぶきっかけになります。それが実習と講義の兼ね合いです。その意味で、実習を入学後の早い時期からやっていくことは重要だと考えます」



齋藤 直人 専任講師

齋藤直人専任講師は、1年次から実験実習に取り組む意義をこう語る。

「実習では、パソコンの画面で確認し、計測した結果をレポートにまとめないといけません。どうしてそれが起るのか、どこまで書けるかは彼らの興味を持ち方次第です。こちらはその現象について、文献を当てるなどして説明しなさいと言うだけです。ですから実験をやっているうちは楽しいですが、レポートを書くのは相当大変だと思いますよ」

生命医科学部の今後は、新学部1期生である1年次生がどのように育っていくかにかかっている。彼らが意欲的に取り組むことで順調にレベルアップしていけば、それによって学部の水準も上がっていく。「今のところ緊張感と熱意を持って、非常に誠実な態度で臨んでくれています。大事なのは今後どれだけ自発的に学んでいけるかということですね」と、齋藤講師は言う。

医・工の知識を兼ね備えた視野の広い研究者に

医学と工学の2つの分野を学びたいと思っ
ていたので、受験することを決めました。
治療の範囲を広げるにはどうすればいいかと
考え、医学だけではなく工学の知識も兼ね備
えた視野の広い研究者になりたいと考えたの
です。大学院に進むつもりですが、学部にいる
間はあらゆる分野の研究を見て、さまざまな
ことを学び、その中から自分の研究分野を決
めていきたいと思っています。今これがやりた
いと決めてしま
わず、視野を広
く持って学んで
いきたいと思っ
ます。



折笠 太一さん

実験で生命の重さを 感じる日々

パンフレットの「次世代の研究者を養成する」というフレーズに惹かれて入学しました。医師の視点で医療現場の実情を見る「臨床医学概論」、最先端の研究から死生学まで幅広い内容の「生命医科学概論」などさまざまな魅力的な講義があり、毎回の授業が楽しみです。ずっと憧れていた実験ですが、実際には神経を一本取るのにも生き物の生命を奪わなければならない、その重みを痛感しています。でもいつかその犠牲は無駄にはならなかったと言えるような成果が残せるよう日々努力を重ねていきたいと思っ
ています。



新屋 幸穂さん

スポーツ健康科学部

多角的・科学的な視点からスポーツ・健康を学び、豊かな社会作りに貢献できる人材を育成する。



従来の体育系の大学、学部は主にスポーツの指導方法を学ぶのですが、社会的ニーズの多様化に伴い、それだけでは対応できなくなつてきています。同時に学力の点でより高みを目指す高校生の欲求を満たし難くなつていくという現実もあります。単なるスポーツ競技力の向上だけではなく、学問としてスポーツや健康について学び専門知識を修得す

他学部の学生が進むような道へ、運動生理学やスポーツ政策などの専門知識や技能を持つて進んでいく。そういう学生を育てるという意味においては、十分な資質を持った学生が入学していると自負しています。

本学部の特徴の1つは、自由度の高いカリキュラムです。「健康科学コース」「トレーニング科学コース」「スポーツマネジメントコー

くありませんから、各コースの科目を自由に選択することができます。

スポーツや運動に健康や予防医学の視点からアプローチすることが本学部のコンセプトですから、同時にスタートした生命医科学部との連携も特徴の1つです。「生命医科学概論」「人体の構造と機能」「ヒトの病理と防衛システム」など、生命科学、医学分野の専門科目を履修しても卒業単位としてカウント

することができまます。また、学外との連携の点では、健康運動指導士資格のための実習を、健康運動指導士がおられて全国展開している大手スポーツジムでお世話になることが決まっています。

卒業後の進路ということで言えば、スポーツや運動、健康の分野における指導者を輩出していくことが目標の1つではあります

ですが、私は必ずしもその専門分野に収まるものではないと思っています。例えば、1つの可能性としてマスコミがあります。スポーツの分野をさまざまな角度から学んだ学生がマスコミに入つて、法学部や経済学部などの出身者とは違った視点で記事を書く。それが一般の読者に伝わっていけば、

やがて国民全体にこれまでのスポーツという認識とは違った見方が広がっていくのではないかと期待しています。さらに希望を言えば、上級試験をパスして公務員になる人が出てきてもいい。世の中を動かす仕組みの中にスポーツを学んだ人間が加わることで、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変わる可能性があります。

人間の活動すべて、極端に言えば政治経済までが、スポーツと結びついています。スポーツについて学ぶことはさまざまな領域に関わっていくということを、まず学生は理解してほしい。そのうえで、また十分に整っていないとは言えない日本のスポーツとその周辺の環境を整備していく人材に育つてほしいと願っています。

スポーツと健康を学ぶことは

人間の活動すべてに結びつく。

るのが、同志社大学スポーツ健康科学部の目的です。この4月に第1期の学生を迎え1年次のカリキュラムがスタートしていますが、入試の種類を問わず、高い学問志向を持った学生が集まったという点では、ほぼ設定した目標を達成できたのではないかと思います。

現在、スポーツ健康科学部の専門教育を受け、そのまま専門の領域に進むという道筋は確固としてあるわけではないのですが、

「3つのモデルコースがありますが、必ずしも3つのコースのいずれかに固定化するものではなく、学生1人ひとりの希望や目的に応じて科目の選択ができるようになっていきます。自分が興味のある分野を体系的に勉強しようと思えば、それに応じた科目を選び、それによって自ずとそれぞれのコースに分かれていくということです。卒業単位

以外は各コースの間に垣根も制限もまった



富居 富 教授

「学問とは何か」を学ぶことから始まる4年間。

知真館2号館103教室。スポーツ健康科学部の専門科目の1つ、「公衆衛生学」の履修登録をしているのは161人。その中には、スポーツ実績で特別選抜されたアスリートもいれば、もちろん一般入試の狭き門をくぐり抜けてきた学生もいる。体育系の大学や他大学のスポーツ系学部と明らかに異なるのは、ジャージ姿の学生がほとんどいないことだ。一見しただけでは、ここがスポーツと名のつく学部の授業風景だとはとても思えない。

公衆衛生学は将来、子どもから高齢者までの健康・体力作りに従事するための基礎科目。現在の国民の健康・体力状況、国の健康作りに関わる法的整備、地域・事業所学校現場における健康増進活動などの現状を学ぶ。国民の健康や体力作りの研究を進めていくための手法、公衆衛生学では疫学研究という、その基本を講義を通じて修得していく。実際の研究は4年次の課程になるので、1年次ではまず「研究とは何か」を知ることからスタートする。

「スポーツ選抜にしても一般入試にしても、同志社大学の学生は基本的に学力重視で採っています。スポーツ競技力オンリーではないので、学力的モチベーションは高いと言えるでしょう。他大学のスポーツ系学部のあるところは学生間の学力差が大きいため、授業の進行に苦労することがあるようですが、本学部ではそんな悩みはほと

んどない。もちろん幾分か個人差はありますが、自ら学ぼうという姿勢を見せる学生が多いですね」と、担当の柳田昌彦教授は話す。



柳田 昌彦 教授

「1年次ではまだ勉強と学問の違いがわかっていません。高校の時は与えられたもの、入試に必要なものを中心となってしまう。学問は自分が興味を持っている分野を突き詰めていくことです。から、その取り組み方がわかっていない学生にまず学問とは何かということをお教える。さらに自分がどこに興味を持てるか、それをできるだけ早い段階で探し出させ、次には資料を集めたり、教員に聞いたりして、自主的にどんどん知識や技能を身につけていく。それこそが学問です。受動的から能動的へ、いかに自主性を持た

せるかということが1年次の基礎科目のポイントです」。

まず学問に興味を持ち、将来のための基礎をきちんと身につける。スポーツ健康科学を探索する4年間の長距離レースは、まだ始まったばかりだ。

社会的な法律や制度、政策といった分野は、学生生活の中では触れる機会がとも少ない。そのため、実際の職場や地域で研究者たちが具体的にどういう研究をし、どのような形で社会に貢献しているのか、できるだけ写真や映像を通して具体的にみせるようにしながら教えているという。

専門の知識を修得し、
スポーツ指導者の道へ

小学生時代から水泳競技で飛び込みをしていて、高校の先生に進路相談をしたところ、同志社大学にスポーツ健康科学部という新しい学部ができると知って、強く惹かれ入学しました。履修している専門科目では、高齢者の運動の仕方や肥満対策、ダイエットとは本来どういうものなのかなど、これまで間違っていた考え方をしていたと知ることも多く、とても刺激になります。私が最も興味があるのはスポーツに関する予防疫学です。飛び込みは怪我の多い競技ですから、それを防ぐための知識は必要不可欠です。週末には地元で小学生に飛び込みを教えているのですが、競技人口が少なく、必然的に指導する人も少ないので、私自身が指導者になって後輩たちを育てていきたいと考えています。講義では内容はもちろんのこと、こういうふうに教えてもらえば理解しやすいなど、人に対しての教え方も勉強になります。大事なのはまず興味を持たせること。私もうろんなことに興味を持って、貪欲に知識を吸収していきたいと思っています。



西村 成未さん

来年度就職を目指す皆さんへ

豊かな人生のために 充実した学生生活を

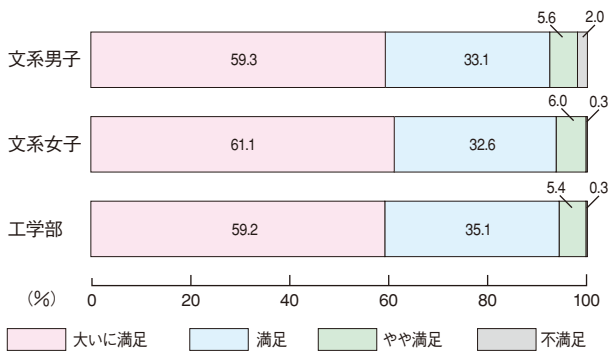
就職を取り巻く状況

2008年4月採用の就職状況は、就職率が前年度に比べ0.4ポイント増の99.3%となり、昨年と同様に高い数字となつています。この99.3%という就職率は、バブル期の就職率(1989年度99.2%)をも越える数字です。これは、金融機関を中心とする企業の業績回復、および団塊世代の大量定年退職への対応による企業側の採用意欲の増加によるものです。また、直近の学生の就職満足度調査においても、文系男子「大いに満足」満足「92.4%」、「やや満足」まで入れると98.0%。文系女子「大いに満足」満足「93.7%」、「やや満足」まで入れると99.7%。工学部「大いに満足」満足「94.3%」、「やや満足」まで入れると99.7%と高い満足度を示しています。(10月6日現在)

2009年4月採用(現4年次生)においては、サブプライムローンの影響による景気の減退から、企業は採用数を絞り始めています。この影響は2010年4月採用(現3年次生)において、明確に現れてくると思われれます。さて2009年採用の就職状況は、昨年と同様、4月中旬より5月下旬に約60%の学生が内定しています。一方で、6月以降も活動を続けている学生がいることから、採用側は、良い人材を早く採用したいという、厳選採用の中で高い採用意欲の表れと言えます。従って、好調な就職状況とは言え、早々と複数内定を得る学生と、内定をなかなか得ることができず就職活動が長期化する学生の2極化傾向が進んでいます。この傾向は、採用側が求める高いニーズと応募する学生とのギャップが生じていることと、応募側が企業名による就職活動を行っていることが大きな要因となっていると言えます。

しかし、就職活動が長期化する学生も、就職活動を進める過程で、実社会の理解と自分自身の理解が進み、最終的には満足できる就職先を決定しています。

就職決定先の満足度



グローバルな競争の中、企業はどのような人材を求めているのか、経済産業省は、企業人事部を対象に、職場が求める社会人基礎力についてアンケート調査を実施しました。

企業の求める人材

●「工機械システム 女」建設「就活は、どこかの会社に入らなくてはならないと焦ってしまふものだが、その最終目標は「内々定」ではなく、「自分の将来像」にあると今更ながら思う。会社名や資本金だけにとらわれず、自分が本当に何をしたいか、何が出来るかを考える良い機会なので、後悔しないような活動をしていけばいいと思う。●「工機械工(院) 男」「メーカー・金属」自己分析が重要だと痛感しました。自己分析により自分がどんな人間で、どんなことがしたいのかということ、を、早い段階から明確にしているか会社選びや選考がスムーズにいくと思います。●「工機械工(院) 男」「電力」志望動機はなぜその会社でなければならぬのかということ。なぜ「を」を繰り返して文章に一貫性を持たせ、説得力のある文章にしてください。●「文 女」「ソフトウェア」自分で決めて、自分を信じて動くこと。就活はこれに尽きると思います。そして、自分の可能性を限定しないこと、簡単に落ち込まないこと。これらは全て、基本的にですがとても大事なことです。●「文 女」「金融・証券」企業研究は本当に大切です。会社のことをよく知って、自分を活かせるフィールドがあるのかどうか見極めて人を説得できるまで具体的に発言できれば良いと思います。自分の長所をかつてくれる企業に出会うまで続けてください。OB・OG訪問は是非してください。●「法 男」「食品メーカー」就職活動では「時間」を大切にしてください。自己分析・エントリーシート記入・面接対策・筆記対策・企業研究など、全て「時間」が必要になってきます。ですから、常に早期早めの行動を心がけてください。体調に気をつけて悔いの残らない就職活動を頑張ってください。●「法 男」「広告」就職活動は「自分を広告すること」です。そのためには、①しっかりと志望動機②確固たる自信③熱意が必ず必要です。だからこそできるだけ早く就職活動に目を向けることをオススメします。逃げずに、諦めずに、油断せずに、頑張ってください。●「法 男」「公務員」公務員試験を目指すならば、1年間の猶予を考慮しておくのが無難だと思う。出来る人ならば、3カ月足らずで軽々と突破してしまうのであろうが、

今年度就職活動をした
先輩からのメッセージ
(2008年度 就職に関するアンケートから)

この調査は、企業が職場で求める能力の明確化を図り、企業の人材ニーズを把握するためのものです。その結果、企業が求める職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力として、「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の3つの基礎的な能力から構成され、定義付け、その3つの能力を主体性・物事に進んで取り組む力、働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)、実行力(目的を設定し確実に行動する力)、問題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の能力要素別に区分しています。

このアンケートに回答をした約9割の企業が、新卒社員の採用プロセスや入社後の人材育成において社会人基礎力を重視し、中でも約8割の企業が、主体性、実行力を求めています。しかし、実際には、自社の若手社員に主体性、課題発見力が不足していると回答した企業も多くあり、企業側が、従来に比べ即戦力としてより高いレベルの「社会人基礎力」を求めていることが分かります。

充実した学生生活を

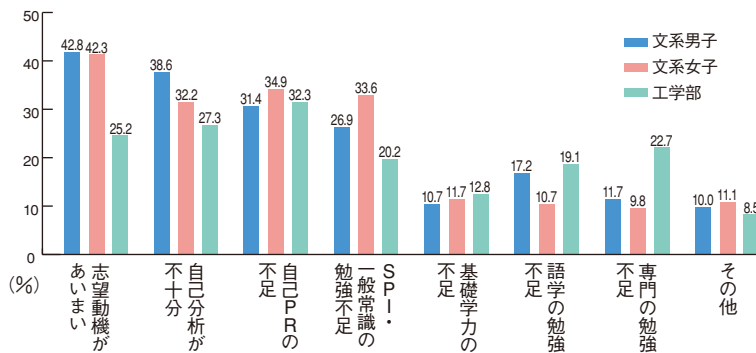
このような社会のなかで、豊かな将来を築くためには、目標を持ち、問題意識を持ってチャレンジし、その経験の積み重ね

や「ゼミでの勉強」などによる学問の積み上げによって、充実した学生生活を送り、自分自身を高めることが大切になります。すなわち、学生時代において、よく遊びよく遊ぶなかで、「人間力」を蓄えることが重要となります。この「人間力」とは、人を思いやる心、コミュニケーション力、社会の出来事に対する好奇心、明るさなどで構成される、その人の人柄、人間的魅力です。

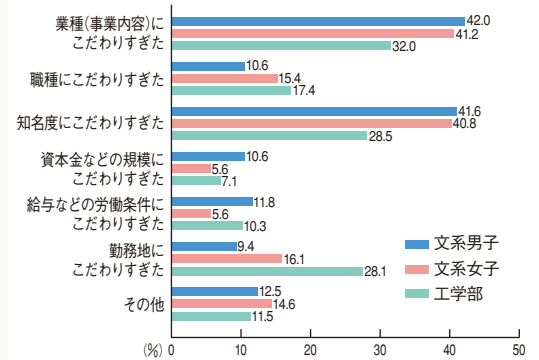
来年度就職を目指す皆さんへ

皆さんが、就職に期待するのは、「収入による自立」「社会参加による貢献」「能力を活かした自己実現」だと思います。そのためには、まず、自分自身を知ること(自己理解)が就職活動の第一歩となります。そして自分のやりたいことがどのような職業、企業で発揮できるかを考えてください。そのためには、OB・OG訪問などで幅広く情報を収集することが大切となります。そしてある程度、業界・企業研究ができれば、次には企業名だけでなく、自分のやりたい職業・働きたい企業を絞り込み、業務内容をよく調べ、「自分はこの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことが大切です。採用担当者は、面接などのやりとりから熱意、コミュニケーション能力、問題意識、行動力を見て一緒に仕事をしたいかを判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはずですよ。自分を信じて、就職活動にチャレンジしてください。

面接・試験段階での反省点



応募先選択段階での反省点



そのような人間はごく一部なので努力をすることを恐れず、地道に勉強していくことが大切だと思う。●経済 女「金融・銀行」できるだけたくさんさんの会社のセミナーに参加するとなぜ自分は第一志望の会社に行きたいのかその理由が見えてくる。OB訪問や支店訪問は効果的。●経済 男「総合商社」就職活動は試験ではありません。良いところに入ったから正解というのではないのです。重要なことは自分が本当に(心から)それをしたと思うことが必要です。したいことを発見し、それに合う事業をしている会社(業種を探すこと)です。●商 女「サービス」業界研究や企業研究はすればするほど、その会社への志望動機がより具体的に、説得力が増します。ただ、事業内容や企業理念に共感しただけでは何も伝わらないと思います。その会社や業界をよく知って、その上で自分がやりたいことが一番実現できる会社、自分と一番あった会社を選べば、その意志を伝えることが容易になると思います。●政策 女「メーカー」笑顔・あいさつ・熱意・志望動機が大切だと思います。就職活動は、楽しい、つらいなど感じ方は人によって様々だと思います。しかし自分が成長するとても良い機会であることは間違いありません。●文情 女「出版」業種に関係なく、自己分析は大切です。面接において自分を理解してもらうには、自分で自分のことをしっかり理解しておく必要があります。自己分析に行き詰まったときは先生や友人に手伝ってもらって、問答すると思わぬ道が開けてきます。●社会教育文化 男「石油元売」面接の基本的なマナー対策や、SPI・入社試験の対策、ESの書き方などは各自で練習して事前に十分に準備しておかなければなりません。なぜなら、そこがスタートラインだからです。しかし、就職活動にはマニュアルや必勝法などはなく、就職活動には人と人のぶつかり合いであるということには忘れないでください。●社会 女「流通」最終的にはその会社に行きたいと思えることが大事で、さらにその会社に「あなたに来てもらいたい」と思われることが大事なので、二つの会社との出会いを大切にしていってください。アドバイスとしては、SPIは本冊をしっかりやること、説明会に行ったら毎回メモをしっかりと取ること、面接を受けるたびにその時の質問と自分が何を答えたかをノートにつけることです。

知的オフィス環境を実現する 基盤技術の研究開発拠点

知的照明システム研究センター

必要な明るさを必要な場所に——。均一が理想的とされてきたオフィスの照明環境を、劇的に変えるイノベーションが進行している。働く人の個性に応じて色、照度、光の温度を、自ら考え調節する「知的照明システム」(スマート・ライティング・システム)。実用化に向けて基盤となる技術の研究開発を担うのが、2007年4月開設された「知的照明システム研究センター」だ。照明の自律分散システム研究の第一人者であり、その実用化を推進する産学連携の「知的オフィス環境コンソーシアム」会長として、知的オフィス環境の実現に取り組む理工学部教授の三木光範センター長に、世界初の「賢い」照明システムの可能性を伺った。

2006年12月、日立製作所、松下電工(現在パナソニック電工)、沖電気、三井物産戦略研究所、同志社大学の5者を発起人に「知的オフィス環境コンソーシアム」が発足しました。私が会長を務め、理事長には三井物産戦略研究所長の寺島実郎氏、電力通信会社、電気メーカーから建設会社、設計会社まで、現在36社が会員として加盟しており、その目的は次世代の知的オフィス環境の実現です。働く人の利便性と快適性を高め、知的生産性と創造性を重視する個別分散最適化環境空間を作る。そのために導入しようとしている革新的技術が、照明と空調のパーソナル化です。

従来、照明と空調はオフィスに均一な環境を作り出すことを第一に考えられ、照明は机上面照度750ルクス以上、空調では全体を温度23度、湿度50%にするというのが基本でした。しかし、人間の心理・生理は個人によって異なります。季節や天候、時間帯、その日の体調などによっても、働くのに最適な照明の明るさ、温度、湿度は変化します。とりわけ照明の色、照度、色温度は、働く人のモチベーションや業務の精度に大きな影響を与えます。そこで、オフィスの知的生産性が最も高くなる環境を実現するために、私たちは照明と空調を個々でコントロールし、個人にとって最適な空間を作ろうとしています。その目的を実現する基盤技術の研究を行うために、知的オフィス環境コンソーシアムからの寄付事業として、2007年4月、同志社大学に設立したのが「知的照明システム研究センター」です。

当センターは私の研究室と実験室が本拠



コンピュータで制御された照明による照度の収束を確認する様子

環境心理学によると、高い色温度は人間の交感神経を刺激して緊張感を高め、色温度が低いと副交感神経が刺激されリラックスできるということです。従って、深い思考を伴わない単純作業は色温度を高くした方が効果的

今年6月まで2カ月間にわたり、学生の執務スペースの天井に照度を変えられる照明を設置する実験を行ったところ、興味深い結果が出ました。被験者の学生10名のうち2名が明るい800ルクスがよいと答えたのに対し、逆に暗めの200ルクスがよいと答えた学生も2名いたのです。同じ作業をしながら、これだけ最適とする照度に差が出るのは、まさに求める照明には個人差があるということです。さらに10名の平均値が400〜500ルクスであるのに対し、通常のオフィスが750〜1000ルクスであることを考えれば、明るさは半分です

となっており、実験室では15台の白色照明器具のほか、電球色とRGB(赤・緑・青)の蛍光灯を備え、様々な実験を行っています。色温度であれば、2800K(ケルビン…温度の単位)と最も低いのが電球色の蛍光灯で、一番高いのが太陽光と同じ6000Kの昼光色蛍光灯、その下が5000Kの昼白色と4200Kの白色、3500Kの温白色となります。照度を測る照度計も有線のほか、電波や赤外線を利用した無線のものなど様々なタイプを備えています。将来的にはコンパクトなカード型を実用化し、好きな照度、色温度、空調温度を入力して机の上に置いておくと、その周りをパーソナルな環境にできるようにしたいと考えています。

環境心理学によると、高い色温度は人間の交感神経を刺激して緊張感を高め、色温度が低いと副交感神経が刺激されリラックスできるということです。従って、深い思考を伴わない単純作業は色温度を高くした方が効果的

で、逆に電球色の下では作業効率が低下してしまいます。ところが、創造的な仕事であれば、その仕事自体がエキサイティングなので、色温度を下げ、できるだけ外部からの刺激を抑えめにする方がよいのです。つまり、仕事の内容によっても適した照明は異なり、その時々で最適な環境が高い生産性を実現するのです。

今年6月まで2カ月間にわたり、学生の執務スペースの天井に照度を変えられる照明を設置する実験を行ったところ、興味深い結果が出ました。被験者の学生10名のうち2名が明るい800ルクスがよいと答えたのに対し、逆に暗めの200ルクスがよいと答えた学生も2名いたのです。同じ作業をしながら、これだけ最適とする照度に差が出るのは、まさに求める照明には個人差があるということです。さらに10名の平均値が400〜500ルクスであるのに対し、通常のオフィスが750〜1000ルクスであることを考えれば、明るさは半分です



三木光範
理工学部インテリジェント情報工学科教授



ターゲットした頃には「個人で照明をコントロールすると、みんなが最高照度にしてしまうのでは」という意見がありました。実験では平均で400ルクスという結果が出ました。

現在の知的照明システムの研究は第1段階にあり、今後、第2、第3段階へと進めていく予定です。第1段階は個人が照度や色温度などの目標値を設定するとコンピュータが照明を制御するもので、この12月には東京都内の大手企業のビルで日本初の実証実験を開始します。そこで得られたデータを元に次のステップへ進み、第2段階では個人が設定したものをコンピュータが学習し、自動制御を可能にします。微調整した結果をまた学習していくという形で、コンピュータがその人の最適な環境を提供します。さらに第3段階では、人間の体調や生理的な状況、例えば脈拍、血圧、脳の活動状態といったもので認識し、環境に反映させます。まるで優秀な秘書のように、さまざまな要素を総合的に判断して最適な環境を与えてくれるというものを、人工知能を用いて実現したいと考えています。来年度に導入する予定の新しい実験室では、脳のヘモグロビンの活動が簡単にわかる装置や、人間の行動をカメラで撮影して履歴を記録する装置を使い、収集したさまざまな生体情報を蓄積し活用していく実験をスタートします。

ところで、知的照明システム研究センターを大学に設けることには2つの意義があります。学生には得られた知識が今後どう活かせるのかが見えにくく、定期試験が当面の目的になってしまっているのではと感じています。大学ではかなりハイレベルなことを教えていますが、定期試験が済むと、ほぼ忘れてしまっているのではないのでしょうか。その状況を改善し、本当に自分が力をつけていくという意欲を持たせるには、社会とつながり、自分の勉強が社会で役に立つのだとしっかり認識することが重要です。知的照明システム研究センターにいる学生は週に1、2回企業の方々とディスカッションをしています。そのことによって、自分たちのしていることが企業の役に立つことを実感し、加えて認められることによりモチベーションが上がります。スキルアップにつながります。当センターの研究に携わった学生たちはすべて、日本のトップクラスの企業に就職しています。

もう1つはアルバイトです。自分の勉強に無関係な仕事よりも、専門分野を活かしてアルバイトできるなら、学生生活に好循環が生まれます。知的照明システム研究センターには企業からお金が入ってきますので、その中で仕事をすれば、勉強をしながらお金を稼ぐこともできるのです。

実社会とつながる、実社会でスキルが試せる、実社会から入った資金が学生の奨学金になる。私は当センターが理工学部の教育における理想的なモデルの一つではないかと自負しています。

スポーツ講演会 メダリスト対談

北京オリンピックを振り返って

世界のトップアスリートたちが、歴史に残る戦いを繰り広げた北京オリンピック。

なかでも日本勢では、日本陸上界にトラック種目では80年ぶりのメダルをもたらした

男子400メートルリレーのアンカー、朝原宣治選手と、男子フルレー個人で

日本フェンシング界初のメダリストとなった太田雄貴選手の活躍が、

感動のシーンとともに鮮烈な記憶として焼きついている。

ともに同志社大学で学び、大学時代にトップアスリートの座へ駆け上がった2人。

両メダリストによる公開対談が10月26日、同志社大学今出川キャンパス

明德館21教室において、学生や市民約600人を集めて開催された。

■歴史的な感動の一瞬、 その時2人は…

午前10時、壇上に北京オリンピック日本代表の公式スーツに身を包んだ両選手が姿を現すと、会場を埋めつくした聴衆から歓声と拍手が沸き起こった。

聞き手として進行役を務めたのは、元フェンシングオリンピック代表監督の田淵和彦。同志社大学名誉教授。まずオリンピックを振り返って、最も感動したシーン、その瞬間の2人の思いを聞いた。

朝原選手が「予選3位で決勝へ進むのは私にとっても初めての経験でした。しかも今



回は爆笑の渦に包まれた。

朝原選手は100メートル走の一週間後に400メートルリレーを控え、大会中2度にわたってベストの状態をつくり出さなければならなかった。一方、太田選手は1日で予選から決勝までを戦った。調整の難しさに話が及ぶと、朝原選手は「本番から逆算し、走り込みの時期を設定していましたが、怪我で走れませんでした。結局ウエイトトレーニングなど基礎体力中心の練習のみで本番を迎えたので、100メートル走はとても不安でした。1次予選は通過したものの、本来走り込みで培う体力がなく、走りに狂いが生じているという感覚もあって2次予選で敗退しました。だから自分でも不完全燃焼という気持ちが強かったです。そこからリレーまでは、100メートル走で力が出し切れなかったことで体力的には余裕があったので、気持ちだけを集めさせることが課題でした」と語った。

ところができたからだと思えます。韓国の崔選手とは6月のワールドカップで対戦し、絶対好調だったにも関わらず敗れてしまったので、オリンピックの2回戦でまた当たるとわかってからは、ここが大きな分岐点だと考えていました。負ければもちろんそれで終わりだし、勝ったらメダルが取れるかもしれない。そう思っただけで試合ですから、勝った瞬間は何とも言えない興奮状態で、ワールドカップでの悔しい思いが爆発し、マスクを投げてしまいました。続けて「僕は道具を大事にしているので、普段は絶対に放り投げたりしないんですけど…と目を向けると、朝原選手から笑顔で絶妙の「ツッコミ」が入り、場

回が最後のオリンピックと考えていましたので、このチャンスを逃がしたら一生後悔することになる。リレーは4人で楽しく走るものという意識がありましたので、これまでではそれほど緊張しませんでした。今回はものすごくプレッシャーがかかっていました。そこから解放されたこと、メダルを獲得できた喜びが入り交じり、その瞬間にはじけ飛んだことが、あのバトンを放り投げた行動になって表れたのだと思います」と、有名な「バトン投げの瞬間を振り返ると、太田選手は「僕の場合、はぎりぎりで勝った試合が多かった。テレビでよく流れるのは準決勝のイタリアの選手との試合ですが、それがあるのも2回戦で勝

果、当日はこの日に取れなければ一生メダルは取れないと思うほど調子が良かったので」と、裏話を明かした。

■選手の生活、 マイナースポーツへの サポートを

開会式は日本でテレビを見ていたという2人に、田淵名誉教授は「これも時代ですね。私は選手で2回、監督として3回オリンピックを経験しましたが、すべて開会式には出席しました。会場に足を踏み入れた時、正面にJAPANの文字が出て歓声が湧き上がると、その瞬間体が浮き上がるように感じ、日の丸を見ると『よし、やるぞ』という気持ちで湧いてきたものですが……」と、ため息をつく一幕も。また、勝負の瞬間に頼るものという質問には、朝原選手が「年齢のせいもあって、1日に2本走るのが厳しくなってきました。リレーは1日1本ですが、24時間でベストコンディションまで回復しているかどうか不安がありました。若い頃はまったく気になりませんが、今年の場合には特に走ってみたいとわかりませんでした。そんな時はあれこれ考えても無駄なので、あとは神様よろしく、新島襄先生お願いします、ですね」と語り、会場を沸かせた。

オリンピック選手村の様子 北京の町の印象などを語った後、田淵名誉教授は2人に「今の日本のスポーツ界に提言したいことは」と、水を向けた。

朝原宣治選手



には怪我で走れないこともありましたが、そういう時にもしっかりサポートしていただきたい。スポーツは結果ありますが、それだけではなく人を育てるという意味でも、選手が安心して競技を続けられるよう、長期的な視野を持って選手をサポートしてもらいたい」と言う。太田選手も「マイナースポーツには



太田雄貴選手

国からの強化費用はほとんどいただけず、企業からの支援も期待しにくい現状です。オリンピックでみなさんが感動を得るためには、やはりお金も重要です。今回のように結果を出すためにも、マイナースポーツにもっと目を向けてもらえればと要望した。

会場からの質問コーナーでは、京都市立洛南中学校1年の上谷川諭哉君が「スポーツをする中で大切なことは何ですか」と質問した。太田選手が「人に感動を与えるスポーツの中で、一番忘れてはいけないと思うのは、戦う相手を敬うことです。相手を尊敬することによって最高のプレーができると思います」と答えると、目を輝かせて大きくうなずいていた。

最後に、両選手が互いにメッセージを送りあった。太田選手は、現役を退き指導者の道を歩む朝原選手に「選手にヒントを与え、答えは選手自身に導き出させるようなコーチになってほしい」と述べ、朝原選手は、4年後のロンドン大会を目指す太田選手に「私と同じように息の長い選手になつてほしい。ずっと活躍し続けるというのは非常に難しいことですが、いい時もあれば悪い時もあります。それを乗り越えて、結果だけでなくプロセスを楽しみ、自分が成長していつてほしい」とエールを送り、対談を締めくくった。

それぞれの「同志社」への思い

◆太田雄貴選手

大学時代に多くのことを学び、さまざまなことを考えることができたのは、同志社大学だからこそです。フエシニング以外のスポーツ選手や一般の学生と熱い話ができたのは、しっかりした考えを持った学生が多かったからだと思います。人生に1度しかない4年間ですから、しんどくても辛くても何かを目標にし、挑戦していつてほしい。残念ながら、スポーツ選手に限らず、大学に入ることです満足している人が多いような気がします。大学というのはあくまで通過点であり、その大学で何を学ぶか、何を思うか、何をやり遂げるかということが一番大事なのです。

◆朝原宣治選手

私にとっては大学時代が転機でした。無名の高校で陸上を始めた当初は大学で競技生活を終わらそうと考えていました。オリンピックや世界陸上が視野に入り始め、世界レベルの選手を目指して頑張り始めたのが、同志社大学在籍中でした。9秒台で走ることに、100メートルでファイナリストになること……望んだことはありますが、すべてやり尽くしましたので、今はこうしておけばよかったという悔いはありません。大学の4年間、陸上競技という熱中できるものがあつたので幸せでした。若いうちは失敗してもやり直しがきくのですから、スポーツに限らず色々なことにチャレンジしてほしいと思います。



新島襄生誕165周年記念

明治維新を邁進した 新島襄を知る2冊刊行!

今年は同志社の創立者・新島襄が誕生してちょうど165年。本学ではそれを記念してこのほど、2冊の“新島本”を同時刊行します。幕末の江戸藩邸に生まれ、不自由な生活を嫌い、21歳で自由の天地・アメリカへ密出国。10年後に帰国し、「魂の教育」「自由な学校」を目指して、同志社大学の前身校を立ち上げた新島襄の波乱に富んだ前半生を描いた『マンガで読む新島襄～自由への旅立ち～』。そして、幼少時代から晩年まで、アメリカ留学、同志社大学設立運動、日本での宣教活動など新島襄の生涯を辿るとともに、日本全国・海外に点在するゆかりの地を巡り、その足跡を紹介した『新島襄検定100問～同志社大学の軌跡～』。同志社を知るために必携の2冊です。



5回たび文庫 別冊 新島襄検定100問

～同志社大学の軌跡～

文庫判 128P 700円(税込)



マンガで読む 新島襄

～自由への旅立ち～

A5判 244P 1,000円(税込)

『マンガで読む新島襄』
「あきがき」から

世はマンガ全盛です。とりわけ、日本のマンガ、映画、アニメはいまや世界的ブームです。そこで、というわけではありませんが、現代の「活字離れ世代」のために、創立者の生涯をマンガにすることにあって挑戦しました。新島襄が知ったなら、びつくり仰天するでしょう。制作中は、フィクションとストーリー創作の狭間で苦悩させられました。

ともあれ、新島の入門書としておおいに活用してもらえれば、次に英語編や続編(後半生)、さらにはアニメ版へと夢は広がっていきます。

同志社大学神学部教授
本井康博

『新島襄検定』
応募結果と謝辞

■募集期間

2008年7月10日～9月30日

■応募総数 253名

■採用 全体で100名

(一部は加工、不足分は創作)

多くの方からご応募をいただき、ありがとうございました。ご応募いただいた設問はできるだけ生かし、足りない部分を新たな設問で補充しました。100問を楽しく解きながら、新島の生涯がほほえみられるように編集しました。これは「試験」でも「認定」でもありません。難易度も3段階に分けましたが、これも「一応の目安」です。

本書は「教科書で知ってる」つもりレベルから一歩抜け出し、奥深い「新島襄の世界」の入り口へと皆さまをご案内いたします。

同志社大学広報課